



市全体で取り組む医療的ケア児への支援 —市立病院の立場から—

市立豊中病院

大阪府豊中市
613床／職員数 1,231 名（うち看護職員数620名）



課題・背景

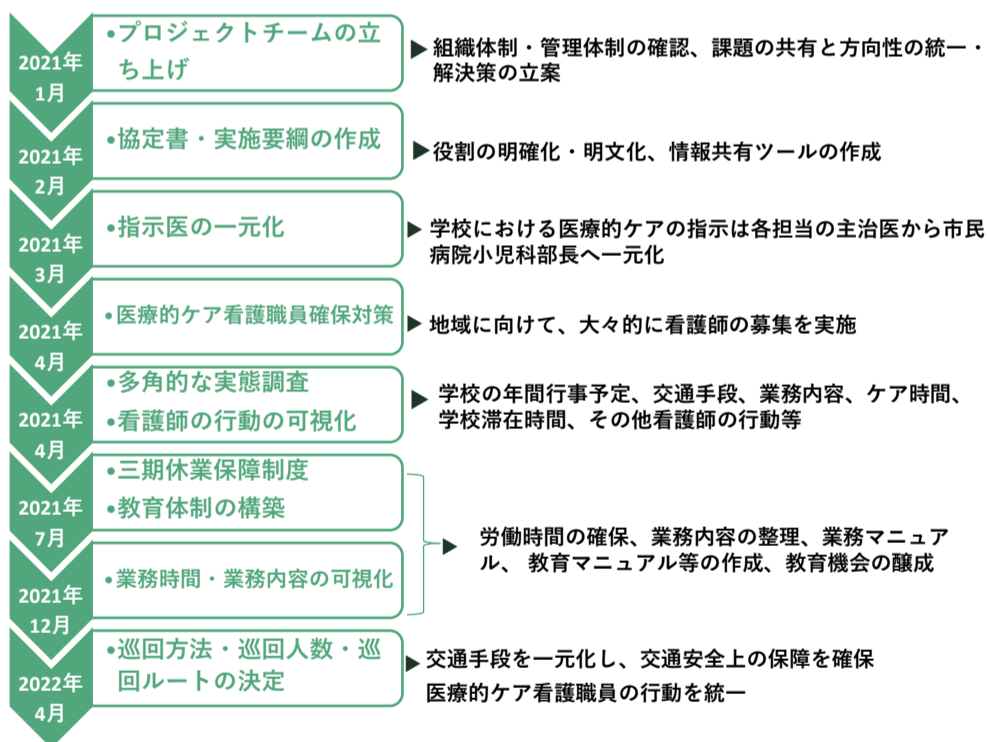
- ①医療的ケア児の増加・医療的ケア看護職員の不足
 - 医療的ケア児の増加、公立小中学校への通学希望児童・生徒の増加、医療的ケアを実施する看護師の不足
- ②看護職員の採用・就業保障・教育体制などに限界
 - 看護師の採用・就業保障・人材育成に限界
- ③教育委員会と市立病院の強みを活かした業務のすみわけ
 - 各組織の役割が異なっていることから、双方の組織理解の必要性、看護職員の業務の検証が必要

目的・目標

- ①教育委員会と市立病院が相互理解のうえ役割を明確化・明文化する
 - ②医療的ケア看護職員の雇用・定着を図り、就業や教育制度を確立する
- ▶ 医療的ケア児への支援体制の確立

取り組み内容

取り組みの流れ



①教育委員会と市立病院の連携

- 教育委員会・市立病院の役割と業務内容の整理
- 「医療的ケア児支援事業」の立ち上げ
 - ・市立病院は対象校へ安定的な看護職員の派遣とケアの実施、役割の明確化

②指示医の一元化

- 医療的ケアの指示書の作成を一元化
- 各主治医から市立病院小児科部長に一元化し労力と時間を削減

③医療的ケア看護職員の行動の可視化

- 医療的ケア看護職員の実態調査の実施
- 労働環境、業務内容などの多角的調査
 - ・課題が明らかとなる
 - 課題に対して就業体制を整備

④医療的ケア看護職員の募集

- 看護職員確保の取り組みを実施
- 各種媒体でPR実施
 - ・パンフレット、仕事内容紹介の動画作成

⑤医療的ケア看護職員の就業保障・教育体制の構築

- 看護職員確保の取り組みを実施
- 就業保障の整備
 - ・働き方を選択的にする
 - ・希望者に対する市立病院での研修実施
 - ・マニュアル、チェックリストなどの作成

成果・効果

- ①医療的ケア看護職員の業務内容の効率化
 - 移動手段の統一による安全を保障
 - 連絡・報告・相談手段を統一したことで困った事象の共有が可能に
- ②指示書作成工程の効率化
 - 主治医の所まで出向く時間・交通費がゼロ
 - 市立病院に受診履歴が残ることで、緊急受診の安心感
 - 即時的に変更・修正が可能
- ③医療的ケア看護職員の就業保障と教育体制の充実
 - 安心できる労働環境
 - 研修による満足感
 - 不安なく1人で配置校に行ける

④大々的な広報により採用者数が増加

○看護職員の雇用と定着促進

	2021年	2022年	2023年	2024年 (予定)
4月人数	16名	16名	18名	22名
新規採用者	(2名)	(0名)	(6名)	(1名)
中途採用者	5名	5名	3名	
3月末まで退職者	9名 (56.3%)	5名 (31.2%)	0名	

⑤医療的ケア看護職員の安定的な配置

看護職員の急な休み、困りごとなどにも対応可能に教育体制の整備により、質の高いケア提供ができる